

ちよつとしい話

～ 保 護 ～

22年11月1日

地球の生態系に於いて何を保護しなくてはいけないのか？毎年毎年減り続ける動植物、その数おびただしいと聞いています。このまま外っておきますと、近い将来我々の生活に多くの不安を抱える事になります。その上、外来種の動植物に国内既存の動植物が被害を受ける事態になり、我が国に於いても深刻さが増してきました。今年名古屋でCOP10が10月18日～29日にかけて開催されました。自然環境と人類の生育、自然環境と経済等の社会問題、共存共栄は可能なのか否か、難問大です。浄土宗では以前より「共生」を最重要視しています。それは私なりに考えますと佛の教えに我々がしてはいけない「十悪」があり、罪の重さの筆頭に「殺生罪」が挙げられています。物を壊してはいけない。地球を構成している全ての物に生命があり、尊き物であり、それぞれに尊厳を持っているからであると思います。それ故、私はアニミズムが大切であると思います。はたして昔から繰り返される自然の淘汰を人間の力を以って保護すべきかすべきでないか、熟慮しなければなるまい。人間のエゴも格国々に利害関係を及ぼし、独立した国家が増え、それぞれの主義主張の元に外交を行いますので、何を行うにも非常に難しくなるのです。仏教では地球が減びるまでに弥勒菩薩がお出ましに成ると言われています。それが56億7千万年先と言う事ですからまだまだ地球は安心です。佛の世界から見れば、法句経の中に、佛の教えとして「諸悪莫作」「衆善奉行」「自淨其意」とあり、意図するところは《人間として悪い事をせず、行いは良い事をし、自らは身を清淨に保ちなさい》との訓戒です。しかしながら世は末法に入り、佛法の伝達もままならず、ましてや行ずる事は覚束なく、身が清淨であるか否か知るよしもありません。もはや佛、法、僧の三宝を敬う、敬える状態にないのです。佛様に対して誠に申し訳の無いことです。原因は謙遜ではなく愚僧、愚かな世俗化した僧が多く成ってしまった事です。人間も保護して立ち直りが出来れば良し、援助と言う名目で金品を与えても将来の展望が確約出来なければ「焼け石に水」となりましょう。人間は必然的に楽を求め苦からは一日も早く逃れたいと思うものです。補助を受ける人に見合った仕事をさせてあげるのが平等であると思うのですが。勿論、色々な御意見がおありかと思えます。唯物、唯心等主義主張がありますが、とにかく地球上が平穏で平和になれば保護云々の成果で御座いましょう。